

第4章 プランの基本的な考え方

- 1 基本理念
- 2 重点プロジェクト
- 3 プランの体系図
- 4 プランの成果指標

第4章 プランの基本的な考え方

1 基本理念

私たちが健康でいきいき暮らし、人とのコミュニケーションを大切に思いやりや活力に満ちた「みどり豊かな暮らしよい都市」を目指すためには、市民一人ひとりが食を知り、日々の生活の中で、様々な経験を通じて食に関する知識や食を選択する力を養い、本市の食文化や丹沢の自然と心身の健康が調和し、自分らしい活力ある暮らしを実現できることが大切です。

前プランでは、3つの視点から食育の実践に取り組んできました。

こころ、くらしの視点における共食や地産地消の推進、食育への関心は徐々に高まってきていますが、からだの視点である朝食の欠食率の割合等、さらに生活習慣の改善が必要な状況が見られます。

そのため、前プランに引き続き、プランの基本理念、基本目標、推進する3つの視点を掲げ、食育を推進します（プランの概念図：P38、図4-1）。

2 重点プロジェクト

本市における食の現状と課題を踏まえ、さらに食育を推進していくために、新たに2つの重点プロジェクトに取り組みます。

(1) 重点プロジェクト1 子どもからその親世代への食育の推進

生涯を通じて健やかな生活を送るためには、子どもの頃から食の大切さや食生活の重要性について認識し、自分の食生活を組み立てる力を身につけることが重要です。

しかし、朝食の欠食や栄養の偏りなど改善すべき点が少なくありません。そこで、乳幼児期、学童期、思春期の子どもを中心とした若い世代とその親世代（20歳代～40歳代）へ、さらに「食」に関心を持てるように本市食育キャラクター・ボンチャーヌ等を活用した食育を推進します。

また、限られた資源の中で、食育を継続的に推進していくためには、行政だけでなく、幼稚園、保育園、こども園、学校、農産物の生産者、食品関連企業、関係機関・団体などが連携して、食育に取り組むための環境整備がさらに必要です。地域の食育活動に取り組む人材を確保し、その活動への支援を行います。

そして、食に関する様々な体験の達成感、子どもたちの自尊心を育て、豊かな「こころ」の基盤になります。身近な栽培体験や農業体験、作って楽しい調理体

験などを通じて、知識と調理技術を身につけることにより、生きる力と食への関心を高めていくことを目指します。



(2) 重点プロジェクト2 食でつなぐまちづくりの推進

家族で食卓を囲み、共に食事を楽しく、会話をしながら食べ、家族の絆を深める共食は、食育の原点でもあります。

毎月19日を「秦野市民の食育の日～家族そろって食べようDAY!～」とし、あらゆる機会を通じて、共食の普及・啓発を図ります。

また、家族と食卓を囲むことができない人にも、友人や仲間を誘って一緒に楽しく食事をすることや、地域の祭りやイベント、食事会等に参加することなどを啓発し、食でつなぐまちづくりを推進します。



【プランの概念図】： 図 4-1

第2次はだの生涯元気プラン (秦野市食育推進計画)

基本目標別 施策の方向性と基本施策

【基本理念】

食で育む 元気な はだの

基本目標1 楽しく食べて健康なからだをつくります ～生涯食育の推進～

- 施策の方向性 (1) 規則正しい食習慣の向上
(2) 食を通じた健康意識の向上
視点1：からだ (3) 食品の安全性の確保

基本目標2 食の大切さを実感し、豊かなこころを 育みます～共食の推進～

- 施策の方向性 (1) 食を通じたコミュニケーションの確保
(2) 食に関する様々な体験の充実
視点2：こころ (3) 食の伝統技術や文化の継承

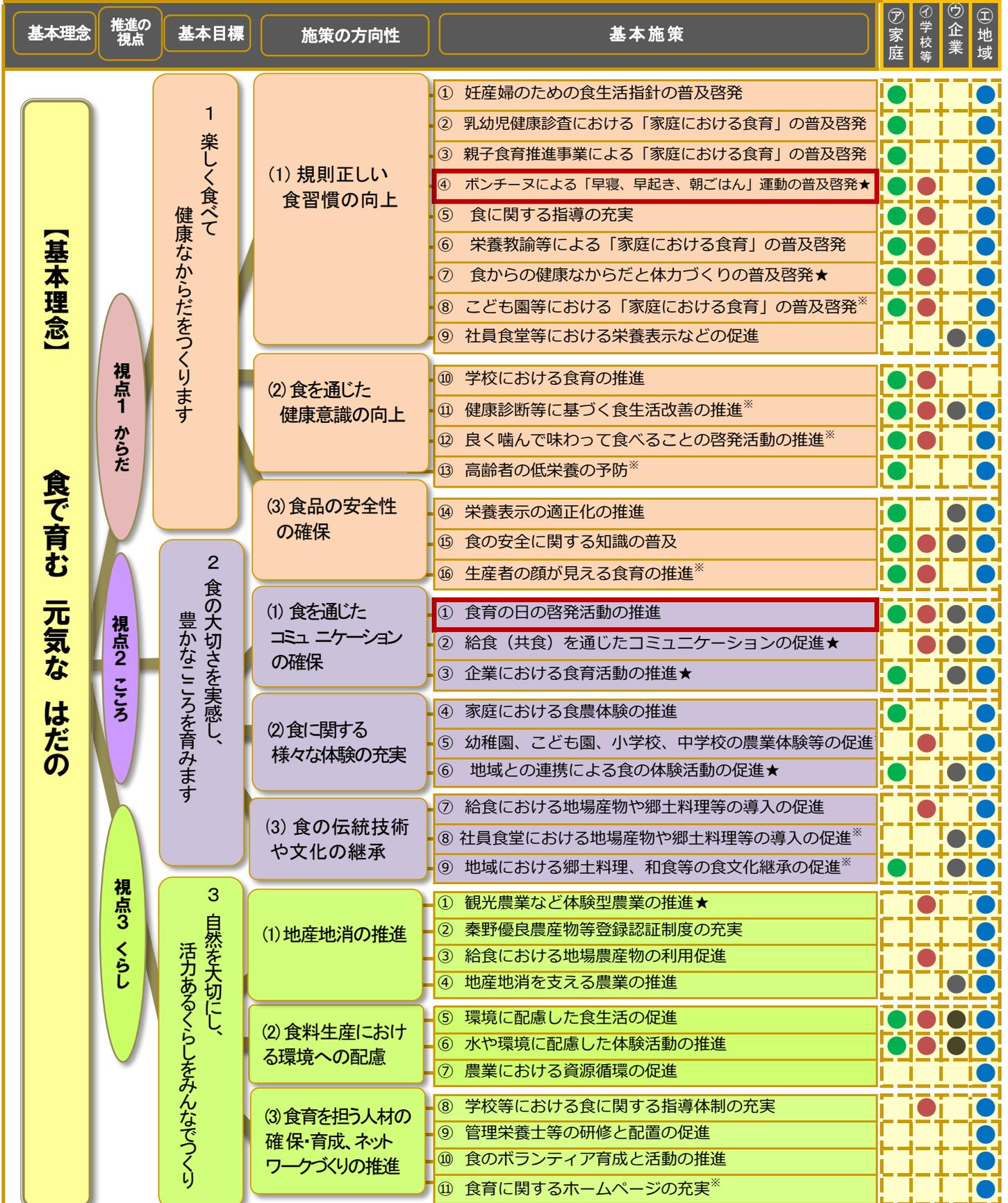
基本目標3 自然を大切に、活力あるくらしをみんなで作 ります～食でつなぐまちづくり～

- 施策の方向性 (1) 地産地消の推進
(2) 食料生産における環境への配慮
視点3：くらし (3) 食育を担う人材の確保・育成、
ネットワークづくりの推進

ライフステージ別の取組み

生涯にわたる一人ひとりの食育の取組みが、大きな輪となって音楽を奏で響きわたるように、市や関係機関等が支援を行い、「食で育む 元気な はだの」を目指します。

3 第2次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）の体系図（図4-2）



□ : 重点プロジェクト、★印: 基本施策を見直したもの、※印: 一部の表現を変更したもの

※⑦～⑩の分野の詳細

- ⑦ 家庭: 各家庭
- ⑧ 学校等: 幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校
- ⑨ 企業: 市内の企業や事業者
- ⑩ 地域: 秦野伊勢原医師会、秦野・伊勢原歯科医師会、秦野商工会議所、秦野市農業協同組合、秦野伊勢原食品衛生協会、秦野市食生活改善推進団体、県平塚保健福祉事務所秦野センター等

4 プランの成果指標

本市の食育の目指す姿「食で育む元気なはだの」の実現に向け、引き続き、3つの基本目標ごとに目標値を設け、プランを推進します（表1～3）。

基本目標1：楽しく食べて、健康なからだをつくります
～生涯食育の推進～

視点1：からだ

表1

施策の方向性	指標（5項目）	H26年度現状値	目標値
(1) 規則正しい食習慣の向上	① 朝食欠食の割合 3歳児 小学生 中学生 20～30歳代男性 出典：秦野市総合計画、3歳6ヵ月児健診問診票 全国学力学習状況調査※、市民Webアンケート調査※ 国の第2次食育推進基本計画※	3.3% 5.5% 8.6% 10.2%	3歳児0% 小・中学生0% 20～30歳代 男性10% 以下
	② 栄養バランスをそろえた食事をする人の割合（主食、主菜、副菜をそろえた食事をしている人の割合） 出典：市民Webアンケート調査 国の第2次食育推進基本計画	63.3%	80%
(2) 食を通じた健康意識の向上	① BMIの区分が正常な人の割合 出典：秦野市市民健康診査結果 国の健康日本21※	男性70.0% 女性68.8%	男性75.0% 女性70.0%
	② 低出生体重児の出生割合 出典：神奈川県衛生統計年報 国の「健やか親子21※」の目標値	10.4%	減少*1
(3) 食品の安全性の確保	① 食品を選ぶとき、安全性を意識して購入する人の割合 出典：市民Webアンケート調査 国の第2次食育推進基本計画	32.8%	90%以上

*1：国の健やか親子21の目標「出生割合の減少」にあわせ、現状値よりも減らします。

（注）※ がついた語句は、参考資料の「6 用語解説」に、五十音別に掲載しています。

基本目標 2：食の大切さを実感し、豊かなところを育みます
 ～共食の推進～ 視点2：こころ

表2

施策の方向性	指標（3項目）	H26年度 現状値 <small>*採用年度</small>	目標値
(1) 食を通じた コミュニケーションの確保	① <u>共食の認知度(19日は食育の日)*2</u> 出典：親子食育推進事業等アンケート 国の第2次食育推進基本計画	28.0%	80%
(2) 食に関する様々な体験の充実	① <u>学校給食における地場産物を使用する割合</u> 出典：秦野市都市農業振興計画※ 国の第2次食育推進基本計画	31.5%	33%
(3) 食の伝統技術や文化の継承	① <u>食育に関心がある人の割合</u> 出典：全国学力学習状況調査 市民Webアンケート調査 国の第2次食育推進基本計画	74.7%	90%以上

* 2: 前プランの指標項目は、家の人と一緒に食事をしている小・中学生の割合をあげていましたが、出典の全国学力学習状況調査項目から削除されたため、共食の認知度を指標としました。

基本目標3：自然を大切に、活力ある暮らしをみんなで作ります
～食でつなぐまちづくり～

視点3：暮らし

施策の方向性	指標（4項目）	H26年度 現状値	目標値
(1) 地産地消の推進	① 体験型農業の拡充 <u>観光農業など体験型農業の参加区画数</u> ^{*3} 出典：秦野市都市農業振興計画の目標値 国の第2次食育推進基本計画	250区画	300区画 ^{*3}
	② 学校給食の残食率 [*] 出典：神奈川県学校給食栄養報告書における残食率	3.7%	5.0% ^{*4}
(2) 食料生産における環境への配慮	① 市民1人1日あたりのごみ排出量 (資源物を除く) 出典：秦野市ごみ処理基本計画*の年度別推定値	689.0g	613g
	② 学校給食の残食率 [*] 出典：神奈川県学校給食栄養報告書における残食率	3.7%	5.0% ^{*4}
(3) 食育を担う人材の確保・育成 ・食育を担うネットワークの推進	① 食育を担うボランティアの活動回数 出典：秦野市総合計画 平成26年度食生活改善活動の実績数 国の第2次食育推進基本計画	食生活改善 推進員の 活動回数 986回	1,050回

*3：指標項目及び目標値の変更理由は、出典の都市農業振興計画の指標も変更となったため。

*4：目標値が現状値よりも高い値になっていますが、学校給食では栄養面及び食育の観点から、子供の苦手な料理を提供する必要もあるため、神奈川県内の小学校給食における残食率の基準値を目標値とし、今後もバランスのとれた給食の提供を目指します。